

## 高等教育グローバルセンター長 就任挨拶



高等教育グローバルセンター長  
後藤 猛

社会生活・構造のグローバル化や情報化が急速に進む中で、国際的に共通の課題を認識し偏見や固定観念に左右されない多様な価値を創造できる人材が求められています。

秋田大学高等教育グローバルセンターは、このような人材の育成を目的として、これまでの組織を統合して2019年4月に設立されました。教育活動部門、教育開発部門、国際交流部門の3部門から構成され、これらが協同しながら「教養基礎教育の充実」、「日本人学生の外国語運用能力の育成と海外留学の促進」、「外国人留学生の受入れの推進」、「海外協定大学との教育研究を通じた国際交流の拡大」などを精力的に行っております。

近年、リベラルアーツ (Liberal Arts) やSTEAM教育 (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) の重要性が叫ばれています。ここで共通するArtsは「芸術」だけではなく、それを「創造する行為やスキル」も意味しており、特定の専門分野に偏らない広範かつ深奥な知識として、多様な価値の創造において重要とされています。また、Society5.0時代に向けて、情報・データサイエンス・AI教育を充実させることも極めて重要です。さらに、Withコロナ/Afterコロナにおいては教育のデジタル化が進み授業の形態も大きく変容するものと思われます。

秋田大学のさらなる発展に資するため、教育に係る諸課題や社会からの要請に対して、センターの教職員が一致団結して取り組んで参りますので、みなさまには大きなご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 高等教育グローバルセンター概要・組織図

高等教育グローバルセンター  
センター長  
後藤 猛 理事 (教育・学生・国際担当) ・副学長

副センター長  
藤井 光 副学長 (国際戦略担当)

副センター長・教育推進主管・教育活動部門長  
上田 晴彦 教授 (教育文化学部)

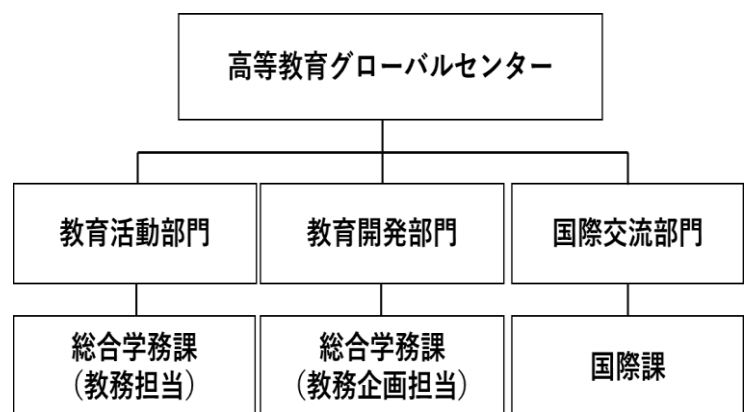
教育開発部門長  
徳重 英信 教授 (理工学研究科)

国際交流部門長  
縄田 浩志 教授 (国際資源学研究科)

専任教員

市嶋 典子 准教授	濱田 陽 准教授
Ben Grafström 講師	吉沢 文武 講師
浜田 典子 助教	袁 曉犇 助教

高等教育グローバルセンターは、教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進、教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実、国際交流に関する企画・広報活動、国際学術交流及び国際教育交流の推進を目的に、教育推進総合センターと国際交流センターを統合し、2019年4月に設置されました。



## 副センター長 就任挨拶



副センター長 藤井 光

4月に高等教育グローバルセンター副センター長に就任いたしました国際資源学部の藤井です。秋田大学に異動して約7年ですが、国際交流業務には頻繁に携わっており、これまでフェラーラ大学(イタリア)、UAE大学(アラブ首長国連邦)、ケベック大学(カナダ)との国際交流協定を提案・締結しました。現在は国際資源学部が連携強化を目指しているアフリカや中央アジア諸国との交流充実を目指した活動を担当しています。

また、インドネシア、ラオス、カンボジアで計3回留学生フェアに参加した経験があり、地元高校生を対象に秋田大学のプロモーションを行いました。印象的だったのは、東南アジア諸国の高校生たちの日本留学に対する熱意で、秋田大学の説明ブースにできた長い待ち行列に驚かされました。

今後はこれまで経験を活かして、世界に通じる人材育成と国際的競争力のある研究の推進のための国際戦略の策定と実施に貢献したいと思います。よろしくお願いいたします。

4月から副センター長に就任いたしました上田晴彦と申します。私はここしばらく、教養基礎教育関係の委員から離れていましたので、現在も手探りの状態で仕事を進めております。特に今年度はコロナ対策で異次元の対応が求められており、業務遂行に苦心しております。

さてご存じのように、秋田大学では教養基礎教育及び国際交流を中心とする体制を構築するため、2019年度に国際交流センターと教育推進総合センターが統合し、高等教育グローバルセンターとなりました。そのためセンター長を補佐しながら教養基礎教育の改善を推し進めるだけでなく、特に授業の英語化を進め、より充実した留学生の受け入れ体制が構築できるように、努めてまいります。

国際化を推し進め、外部評価に耐えることのできる強い秋田大学となるよう、持てる力を出し切りたいと考えています。今後とも、どうかよろしくお願いいたします。



副センター長 上田 晴彦

## 国際交流部門長 就任挨拶



国際交流部門長 縄田 浩志

4月から国際交流部門長をしております縄田浩志と申します。

私自身も、学部生の時には大学の交換留学制度を利用して1年の米国留学、また大学院生の時にはアフリカのスーダンで2年弱の留学とフィールド調査を経験しました。異文化のなかで、外国語での授業に何とかついていくために必死に努力したり、同じように別の国からやってきた同世代の友人とのつきあいが深まったり、本場のスポーツ競技にチャレンジしてみたりと、留学の機会は、自身の人格形成また社会経験において、さらには学問の探究において、飛躍的な成長をもたらしてくれました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、留学の機会をつかみかけていたのに、延期や中止で海外へ出発できる見込みがなくなってしまう秋田大学の学生の皆さん、同時に、国際交流協定の下、渡日して秋田大学で学ぶことを楽しみにしていた学生の皆さん、本当に無念のことと思います。それでも、これまでの努力と高い志が別の形で実を結ぶ日がきっと近いうちにやってくることを信じて、自分を磨き続けてほしいと思います。これからも留学生一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、本学の国際学術交流がさらに活発なものとなるために、努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



## 新専任教員よりご挨拶

本年4月に高等教育グローバルセンターに赴任した袁曉犇と申します。

今は主張が相反するディスコース（談話）における共通の語彙項目に注目し、言葉によって反映される異なる価値観のあり方を明らかにしようとしています。

このテーマにたどり着いた理由は、私自身のアイデンティティにかかわっていると思います。一人の外国人として長らく日本で生活しています。同じ言葉を使っても、異なる解釈をしていることがよくあることに気づきました。たとえば、「自由」という言葉は国や文化、文脈などによって解釈が異なってくると思われます。なぜそのようなことが起こるか大変関心を持っています。

今の仕事は日本語教育がメインになっており、留学生と接する機会が多くあります。日本語学習者でもあった自分ですが、学生を教えながら、学生に教わる毎日を送っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。



高等教育グローバルセンター  
助教 袁 曉犇



## 着任のご挨拶

本年4月、秋田大学国際課長に着任しました吉原誉夫です。

私の趣味の一つがバスケットボール観戦で、毎年5月に、高校生のバスケットボール大会である能代カップの観戦に訪れていました。これが赴任前の秋田との接点でした。このような御縁もあり、今回、秋田大学に赴任する機会をいただき大変嬉しく思います。高等教育グローバルセンターや国際課の教職員の皆さんと、一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

これまで、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致、国内のユネスコ活動の推進、日本学術振興会（JSPS）ストックホルム研究連絡センターに出向して学術・研究の促進などの国際業務に携わってまいりました。

このような経験を活かして、当グローバルセンターが、本学の国際交流促進の中核としての役割を果たせるよう、教職員の皆さんと共に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



国際課  
課長 吉原 誉夫



## 令和元年度 秋田大学 教養基礎教育優秀授業奨励賞

高等教育グローバルセンターでは、教養基礎教育科目の授業評価（総括的）において、学生からの評価が特に高い上位3名を優秀授業奨励賞受賞者として、年に1度表彰しています。

令和元年度 秋田大学教養基礎教育優秀授業奨励賞を受賞された3名の先生方に「授業における工夫」、「授業の狙い・考え方」、「学生に対する思い」を授業の概要とともに伺いました。

### 受賞教員

講師 田口 瑞穂  
(教育文化学部)

私が教養基礎教育の授業で大切にしていることは、学生自身が主体的に取り組む、表現し、議論することができる場を設定する、ということです。

ネイチャー写真入門では、撮影実験した写真や作品としての写真の相互評価を毎回行います。また、学びのしめくくりとして、写真展を行います。科学史入門では前半は講義ですが、後半は学生個人によるプレゼンテーションと、その発表に対するディスカッションの授業となります。

これらにより、両授業とも、学生のよりよい学びにつながっていると考えています。

天体観測入門は林信太郎教授と毛利春治技術長との共同授業で、学生自身が望遠鏡を操作し、目的の天体を観察できたという喜びを大切にしています。

### 受賞教員

教授 星 宏人  
(教育文化学部)

私の教養基礎教養担当科目は「大学英語I, II」及び「大学英語III」です。できる限り英語を使って教えています。

「大学英語I, II」では学生たちに、理工学部や教育文化学部における将来の研究で実践的に使える英語を習得してもらうことを目標にしています。具体的には学生に、できる限り簡単な単語や文法を使って、できる限り簡潔に、的確に自分の考えを英語で表現する練習をしてもらっています。

理工学部の学生のための「大学英語III」ではTOEIC Seminarを担当しています。このコースでは学生たちに、TOEICのための学習をしてもらうばかりではなく、理工学部で学ぶ専門知識を将来の国際的なビジネスの場で最大限有効活用できるよう、実践的な英語表現を学んでもらっています。

### 受賞教員

教授 長谷川 仁志  
(大学院医学系研究科)

初年次ゼミ  
『入学直後の学修意識改革』

全学生のアクティブラーニング意識向上のポイントは、入学直後からアウトカムを明示して各種アクティブラーニングを導入することにあると考えられます。

初年次ゼミでは、初回の講義から卒業時の知識・態度・技術を包括したアウトカム（コンピテンシー）と、そこに向かって段階的に進む最初のステップとしての初年次ゼミ終了時のパフォーマンス評価（模擬患者によるOSCE：客観的臨床的技能試験）を明示するとともに、症候ベースの医療面接・臨床推論と医療行動科学の学修をチーム基盤型で進めています。

常に目の前の患者さんやご家族、医療者の皆さんを意識した展開と、これから学ぶ各学年の学習のポイントに結びつける点が重要と考えております。

# 外国人留学生向け:「新留学生オンラインオリエンテーション」

2020年6月2日(火)開催

2020年4月に新たに入学した外国人留学生を対象として、Zoomを利用した遠隔オリエンテーションを開催しました。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的困難を感じている留学生も多いことから、各種政府給付金や奨学金について重点的に説明を行ったうえで、生活上の諸注意事項に関する情報提供を行いました。




**新留学生オリエンテーション**  
Orientation for new international students

秋田大学高等教育グローバルセンター  
Akita University Global Center for Higher Education

2020年6月2日(火)  
Tuesday, June 2nd, 2020

**秋田大学の緊急支援事業**  
Emergency Student Support proposed by Akita University

● 秋田大学奨学資金の貸与  
Loan-type scholarship fund provided by Akita University



Japanese text only

一時的に学費(授業料、教材費等)及び生活費の支弁が困難な場合は、**30万円以内**を、学費(入学科・授業料)の支弁が困難な場合は入学科・授業料相当額を貸与します。  
This financial support may either take the form of a loan payment of up to 300,000 JPY or a loan-type waiver of entrance and tuition fees.

手続きは学生支援・就職課で行います。  
Please apply at the Student Support and Career Center.

15

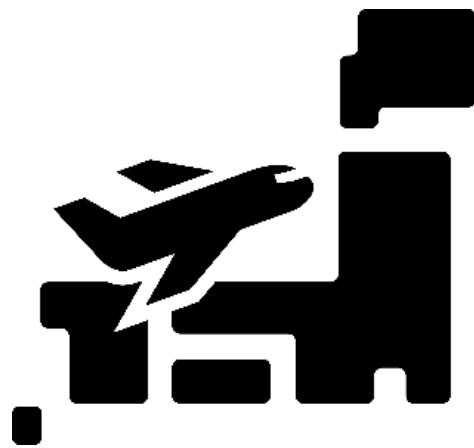
**COVID-19 予防対策をお願いします**  
Help us prevent the spread of COVID-19



毎日「健康観察記録」をつけましょう  
Please fill out your Health Observation Sheet every day

秋田県外への移動はしないでください  
Please refrain from travelling outside of Akita prefecture

21



## 秋田大学 国際交流関連データ

■国際交流協定校数(2020年7月1日現在)  
大学間協定(30カ国・地域62大学)  
部局間協定(18カ国・地域30学部等)

■留学生数(2020年5月1日現在)

学部生	100名
大学院生	80名
交換留学生・研究生等	17名
合計	197名



編集・発行：  
国立大学法人 秋田大学 高等教育グローバルセンター

連絡先：国際課(国際交流部門事務担当)  
TEL: 018-889-2870 E-MAIL: kokusai@jimu.akita-u.ac.jp  
総合学務課(教育活動部門・教育開発部門事務担当)  
TEL: 018-889-3192 E-MAIL: kyomusom@jimu.akita-u.ac.jp